

きん じょう てん か
錦上添花

錦ヶ丘中学校
学校便り
5月13日発行 NO.4
文責 出崎 友英

車中の出来事

先日、私は私用で電車に乗っていました。

途中の駅で20人ほどの小学生らしい集団が、ガヤガヤといった雰囲気でもり込んできました。

それまでわりと静かだった電車の中は、小学生の騒ぐ声でにぎやかになりました。まだ朝早い時間だったので、ウトウトされていた乗客も、その喧騒の中で不機嫌そうな顔になっていました。

その小学生たちを引率している先生らしき人は、騒がしくなるたびに注意をされるのですが、電車の中なので大きな声はなかなか出しにくい様子でした。先生のなんとも申し訳なさそうな表情を見ると、同業者の私はなんとも言えない気持ちでした。

小学生たちは、先生から注意を受けてはそのたびに少し静かになり、まただんだん騒ぎ出します。その繰り返しが何度か続いて、どうやら彼らが降りるべき駅が近づいてきたようです。

「さあ、降りるよ。」と先生がみんなに声をかけました。するとその小学生たちが口々に「ご迷惑かけました。」「すみませんでした。」と、それぞれがペコリとおじぎをして降りていくのです。

それまで、なんとなくげとげしかった私の気持ちが、少し心地よくなりました。

もちろん、そう感じたのは私の個人的な感覚です。他の乗客の中には慚然とした気持ちの人もいたかもしれませぬ。「『すみませんでした』なんて言う前に静かにしとけよ。」と言われれば、たしかにそのとおりです。

私は、(もしあの小学生の一人が、何も言わずに騒がしいまま降り去っていたらどうだったのだろうか?)と考えてみました。

私には、「あの小学生たち、うるさかったな。」という記憶が残るだけでしょ。いや、もしかしたらふつうの出来事として記憶にも残らなかったかもしれませぬ。

あの小学生たちの「ご迷惑かけました。」「すみませんでした。」という態度が、心にほんのりと残ったのです。



私たちは、生活する中で時に失敗やまちがいをしています。誰かに迷惑をかけてしまうこともあります。

それを指摘されたり、それに気づいたとき、「すみませんでした。」「ごめんなさい。」と言葉にしたり、きちんと頭をさげることができるかどうかはとても大切なことなのだ、あらためて感じた電車の中での出来事でした。

結団式がありました。

5月9日(月)に体育大会の「結団式」がありました。ここから、5月20日(金)の体育大会に向けて、本格的に活動がスタートします。結団式では、生徒会執行部から今年度の体育大会のテーマ「**刻み込め錦の軌跡～猛炎胸に今こそ心を繋げ～**」が発表され、各団リーダーに団旗が渡されました。その後の団ごとに集まって手拍子等の練習をしているリーダーの声や態度を見て、体育大会への熱い想いを感じました。体育大会を通して学ぶことが、きっとたくさんあると思います。

体育大会に向けてみんなの心を繋いでいきましょう。



お知らせ・お願いです。

5月9日(月)、本校の卒業生で書道家の**武田双雲さんが来校**されました。体育館に集まった3年生に講話をしていただき、2年生、1年生は教室でのオンライン配信で話を聴きました。中学校時代の懐かしい話から始まり、今の全てのことを楽しむという武田さんの考え方にふれて、心を揺さぶられた1時間でした。その後は、2年生と1年生が待っている廊下を歩きながら生徒とハイタッチをしたり、タブレットにサインを書いてもらったりして、生徒たちがとても喜んでいました。武田双雲さん、すてきなひと時をありがとうございました。武田さんは、**5月28日(土)に熊本城ホールで講演会**を行われます。皆様、ぜひ足を運んでみてください。詳しくは、別途配布しましたプリントをご覧ください。



限界こそ、新たなスタートラインだ。

「先生のコバ集」より